

番頭傳兵衛はアツと云ふ間に縛られて仕舞ひました。此方には菊屋治兵衛、船頭幸兵衛、百姓久兵衛、肝煎金兵衛、少し下りまして縛られたまゝで番頭傳兵衛の五人を列べておきまして、これよりお裁きに相成ります。

「治兵衛、其の方宅に居らば、上に此の様な手数はかけまいのを」

「恐れ入りまして御座ります」

「其の方、昨日は晝間より他出いたしたとあるが、何處へ参つた」

「へエ、堀江へさして」

「フム、堀江は北か南か」

「へイ、南堀江で御座ります」

「偽を申すな、晝間より餘程の間ぢやが、何をいたしておつた」

「へエ、久しく逢はぬ友達に逢ひまして、種々積る話が……」

「コリヤ、南ではあるまい、北堀江の青樓へ参つたのであらう」

「誠に恐れ入ります」

「イヤ恐れ入る事はない、参つて悪い處なればお上より差止になる、其方は度々参るか」

「實は仲間の交際で、兩三度参りました様な事で御座ります」

「フム、行つてやれ、遊んでやらねば青樓が立行かぬ、併し参つて何をいたす」

「へエ、御酒を頂戴いたします」

「ハ、其方は妙な奴ぢやな、酒を飲む丈なら我家で商賣いたすではないか、酒ばかりではあるまい  
藝者を招ぶであらう」

「恐れ入りまして御座ります」

「イヤ、恐れ入る事はない、招んでやれ」

「仲間の交際で、兩三名揚げました様な事で」

「少ないなア三名位い、もつと揚げてやればよいに」

「實はその……十名ばかり」

「ム、その美しいのに酌をさせて楽しむと云ふは、御代泰平國恩を忘れるな、其の後で女郎を買ふぢやろう」

「へエ、それも仲間の交際で」

「フム、其の方五十四歳と申したのう、子があるか」

「へエ、五人御座ります」

「五人も子供を設け、其の年にて女郎買ひをいたすは餘程確なものぢや、併し女郎の小買は損である、